

28 E - 10

アトピー性皮膚炎患者に対する白虎加人参湯の止痒効果機序の検討

富山医科大学 医学部 皮膚科学教室

○豊田雅彦, 牧野輝彦, 諸橋正昭

【目的・対象】成人型アトピー性皮膚炎患者に白虎加人参湯（ツムラTJ-34）を8週間単独投与し、早期からの痒みの著明な軽減とそれに伴う皮疹の軽快が認められた3症例につき、その止痒効果機序を臨床的および基礎的に検討した。投与前後の血液検査、生検皮膚を用いた形態学的検討に加え、培養ヒト表皮細胞に与えるTJ-34の成分別効果を調べた。研究の過程で、TJ-34の末梢神経に及ぼす作用が示唆されたため、培養神経前駆細胞（neural progenitor cell）を用いた中枢神経に及ぼす作用の基礎的検討も施行した。

【結果】アトピー性皮膚炎患者に対するTJ-34の止痒効果機序は以下の如くまとめられた。
好酸球：1.全好酸球数および活性型好酸球の減少。2.脱颗粒の抑制。3.好酸球同士および好酸球と他の種類の細胞との接触像の消失。

神経分布および神経ペプチド：1.表皮内神経線維数の減少。2.真皮血管周囲substance P陽性神経線維数の減少。3.汗腺周囲vasoactive intestinal polypeptide陽性神経線維数の正常化。4.Substance Pによる皮内反応（wheal and flare reaction）の正常化。

神経成長因子（NGF）：1.皮疹部表皮NGF陽性表皮細胞数の減少（免疫組織化学）。2.皮疹部皮膚NGF含有量の正常化（ELISA）。3.培養表皮細胞上清のNGF量：TJ-34により濃度依存的に抑制。4.培養表皮細胞の増殖能：TJ-34により濃度依存的に抑制。

中枢神経細胞：1.コロニー形成能の軽度促進。2.Platting efficiencyの亢進。3.細胞増殖能の亢進。4.毛様神経成長因子の分泌亢進。

【結論】1.アトピー性皮膚炎患者に対する白虎加人参湯の止痒効果は、皮疹部における好酸球の動態（cell-cell interaction, cell activation, chemical mediator release）および皮膚神経系因子（innervation, neuropeptides, nerve growth factor）に影響を及ぼすことにより発揮されることが示唆された。2.白虎加人参湯は中枢神経細胞に対しては、*in vitro*において比較的軽度ながら、分化・増殖機能に促進的に作用した。